平和な国の使命とは

今の日本は平和である。なぜなら、戦争をしていないから。私は、こう考えた。だが、昔から日本は平和であったわけではないと思う。では、どのようにして日本は今のように戦争のない国になったのだろうか。また、どのような事があって戦争は起こってしまうのか。日本と世界の歴史を振り返り、その歴史と共にこの二つの問いについて考えてみた。

日本では、縄文時代から始まり現在の令和までたくさんの戦いをしてきた。だが、私は、時代が変わっていくなかで日本の戦いの基準が少しずつ変わっていることに気づいた。

弥生時代のあたりでは、日本の中で無数のムラから始まり、百程のクニにまとまっていくことくらいであったため、まだまだ日本という国を支配する考えはなく欲も少なかったのではないかと思う。そのため、目的については水や土地の利用についてであった。

古墳時代から平安時代のあたりでは、豪族

同士の争いや天皇の後継ぎ争いなどで日本中が戦地になることはなかった。このことからこの時代ではトップ争いのようなものであると思い、庶民はあまり争っていないと思う。そのため、これらの時代は日本の歴史上で平和な時期の一つであったのではないかと考えた。

鎌倉時代からは、武士の時代に入り、庶民も自分の土地や自分の身は自分自身で守らなければならなかった。なので、中世の時代では、戦いは庶民にとって自分自身を守ることであったと考えられる。だが、このくらいの時代から武士が政治と結びついて、武力で国をおさめる考えに転換されていったため、戦いが主流となってしまったのだと思った。江戸時代では、鎖国があり外国とは関わりを持たなかったため、戦いも少なかったのではないかと思ってしまったが、一揆や反乱も多く、庶民は自分自身が楽になりたいと考え、また健康でいられるようにと思い戦いをしていた

20 × 20

のだと思う。

近代は、先進国を目指したことから欲がでてしまい、守る戦いではなく支配下を広げようとする動きになってしまっていると思う。

このように、昔は小さな争いで、だんだんと自分を守るようになって、日本という島国を統一するようになり、最後には土地や人を支配する戦いになっていくことがわかる。また、どの時代にも戦いがあって発展している。このような日本の平和ではなかった戦いの過去は、現在の平和な日本とどのように関係しているのだろうか。

現在の日本は、日本国憲法の平和主義というものに基づいて戦争はしていないが、この日本国憲法ができたのは、第二次世界大戦が終わり日本軍が降伏したことで、GHQが提案してくれたからである。大正の日本、昭和の日本は、敗戦を受けて発展してきたのである。

第二次世界大戦があった時代、戦っていた国民の人々はつらかっただろう。だが、今の日

20 × 20

本があるのはそのような過去があるからこそなのではないか。と言っても戦争は良い事ではない。それを後世に語り続けられるように、広島の人々は、原爆ドームを残してくれた。語りべの方が伝えてくれている。このように、戦いの過去は未来に向けての教えをつなげてくれているのではないかと思う。現在の日本で、戦争に嫌悪感を抱くことも過去の影響があると考える。

現在の日本は、戦争がない。だが、世界には、歴史上にある戦いと同じように宗教の考え方の違い、人権や土地をめぐってなどまだまだ争いをしている地域もある。私達、平和な地域に住んでいる人々は、そのような地域をなくしていくように考えなければならない。また、祖先の人々が伝えてくれたように戦争の恐怖も後世に伝えていかなければならない。これが、二つの問いを考えていくなかで、私が感じた平和な国の使命である。

20 × 20